



2021年2月19日

各 位

会社名 佐渡汽船株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 尾崎弘明  
 (JASDAQ・コード 9176)  
 問合せ先  
 役職・氏名 総務部長 土屋 亨  
 電 話 025-245-2311

## 2020年12月期通期の業績予想値と実績値との差異

### 及び営業外費用、特別利益、特別損失の計上

### 並びに剰余金の配当に関するお知らせ

2020年11月16日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表した業績予想値と本日公表の実績値との差異及び営業外費用、特別利益、特別損失の計上並びに剰余金の配当について、下記の通りお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2020年12月期通期連結業績予想値と実績値との差異 (2020年1月1日～2020年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 7,254	百万円 △3,239	百万円 △3,352	百万円 △3,878	円 銭 △272.29
当期実績(B)	7,690	△2,676	△2,755	△2,547	△177.85
増減額(B-A)	436	563	597	1,331	
増減率(%)	6.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2019年12月期)	11,477	△308	△418	△769	△54.06

#### 2. 2020年12月期通期個別業績予想値と実績値との差異 (2020年1月1日～2020年12月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,915	百万円 △3,058	百万円 △3,593	円 銭 △251.64
当期実績(B)	5,266	△2,678	△2,417	△168.27
増減額(B-A)	351	524	1,320	
増減率(%)	7.1	—	—	
(ご参考)前期実績 (2019年12月期)	8,112	△477	△809	△56.66

### 3. 差異の理由

#### (1) 連結業績

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による需要の動向を厳しく見積もっておりましたが、「Go To トラベルキャンペーン」の効果により個人客及び団体客が想定以上に回復したことから、前回予想を上回りました。

営業利益につきましては、売上高が前回予想を上回ったことに加え、船舶燃料費が想定を下回ったことや、連結各社において費用の圧縮に努めたことにより営業費用が減少したことから、前回予想を上回りました。

経常利益につきましては、営業利益が前回予想を上回ったことに加え、新型コロナウイルス感染症に関する助成金等を助成金収入に計上したことにより、前回予想を上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記の理由に加え、前回予想で想定していた固定資産（船舶）の譲渡方針決定に伴う特別修繕引当金戻入額の特別利益計上を見送ったものの、「4. 特別利益、特別損失の計上について」にて後述の通り、特別利益を計上したことにより、前回予想を上回りました。

以上の理由により、売上高7,690百万円、営業利益△2,676百万円、経常利益△2,755百万円、親会社株主に帰属する当期純利益△2,547百万円となりました。

#### (2) 個別業績

売上高、経常利益につきましては、(1)連結業績に記載の通り売上高が前回予想を上回ったこと、費用においても同様の理由により減少したことに加え、「Go To トラベルキャンペーン」の効果により関係会社の業績が想定よりも上回ったため、関係会社の財政状態を勘案して引当てを行う関係会社事業損失引当金繰入額が、想定より減少したことにより前回予想を上回りました。

当期純利益につきましては、売上高、経常利益が増加したことに加え、前回予想で想定していた固定資産（船舶）の譲渡方針決定に伴う特別修繕引当金戻入額の特別利益計上を見送ったこと、「Go To トラベルキャンペーン」の効果により関係会社の業績が想定よりも上回ったため、想定していた関係会社株式評価損が発生しなかったこと、「5. 特別利益の計上について」にて後述の通り、特別利益を計上したことにより、前回予想を上回りました。

以上の理由により、売上高5,266百万円、経常利益△2,678百万円、当期純利益△2,417百万円となりました。

### 4. 営業外費用の計上について

当社は関係会社の支援に伴う損失に備えるため、当該会社の財政状態を勘案して必要額の引当てを行っておりますが、2020年12月期決算において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部の連結子会社の業績が著しく悪化したため、関係会社事業損失引当金繰入額107百万円を営業外費用として計上しております。なお、連結決算においては消去されるため、連結決算の損益に与える影響はありません。

### 5. 特別利益、特別損失の計上について

#### (1) 連結決算及び個別決算

当社は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け業績が著しく悪化し、2020年12月期において多額の当期純損失を計上し債務超過となることが見込まれていたことから、関係機関及び地元自治体に対して事業継続のための支援を要請しておりましたが、国土交通省の「令和2年度 地域公共交通確保維持改善事業補助金（地域公共交通感染症拡大防止対策事業）」として90百万円、新潟県の「佐渡航路事業継続支援事業」として715百万円、「地域公共交通感染症拡大防止対策事業」として88百万円の補助金が確定したことから、個別決算及び連結決算において895百万円の特別利益を計上しております。

#### (2) 連結決算

2019年3月9日、当社のジェットフォイル「ぎんが」が両津港に向け航行中、浮流障害物（海洋生物と思われる）と接触し、乗客80名超の方が負傷される事故が発生しました。この事故に関し、ジェットフォイル「ぎんが」の復旧に係る費用の一部が確定したことから、事故関連損失187百万円を特別損失として計上（うち、91百万円は2020年12月期第1四半期決算において計上）するとともに、この復旧に係る費用に対して受け取った受取保険金170百万円を特別利益として計上（うち、86百万円は2020年12月期第1四半期決算において計上）しております。

6. 剰余金の配当について

	決定額	直近の配当予想 (2020年2月19日公表)	前期実績 (2019年12月期)
基準日	2020年12月31日	2020年12月31日	2019年12月31日
1株当たり配当金	0円	未定	0円
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

理由

利益の配分にあたりましては、今後の経営環境の変化と計画的な設備投資に備えて一部を内部留保し財務体質の強化に努め、収益の向上を通して株主には安定した配当を維持することを基本方針としておりますが、2020年12月期の期末配当につきましては、個別の通期業績が赤字であることから、誠に遺憾ながら前回予想（2020年11月16日発表）の未定から無配とさせていただきます。

以 上